

ナシ病害虫の発生状況（7月4～5半旬） 調査地点：中通り19園地、浜通り10園地

(1) ナシ黒星病

新梢葉における発生ほ場割合は、県中・県南地方では平年よりやや高く、その他の地方は平年並でした。また、果実における発生ほ場割合は、県中・県南地方では平年並、その他の地方は平年よりやや低い状況であり、総じて平年並の発生状況でした（図1、2）。

発病部位は伝染源になるため除去し、園外に持ち出して適切に処分しましょう。

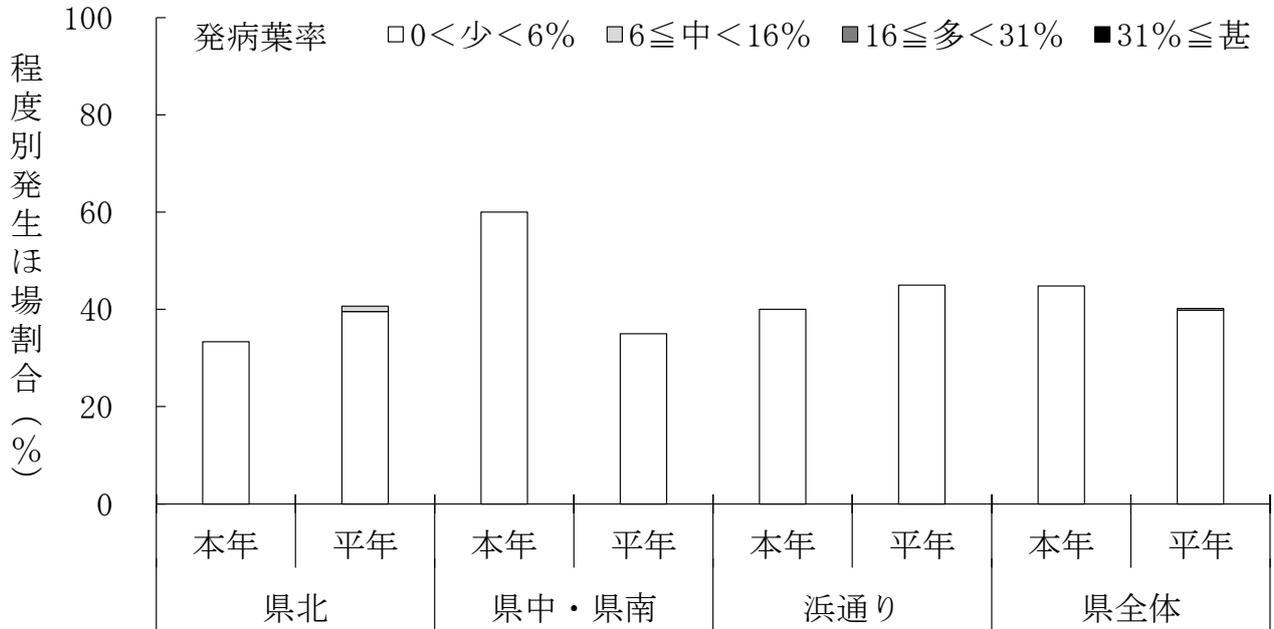


図1 ナシ黒星病の発生状況（新梢葉）

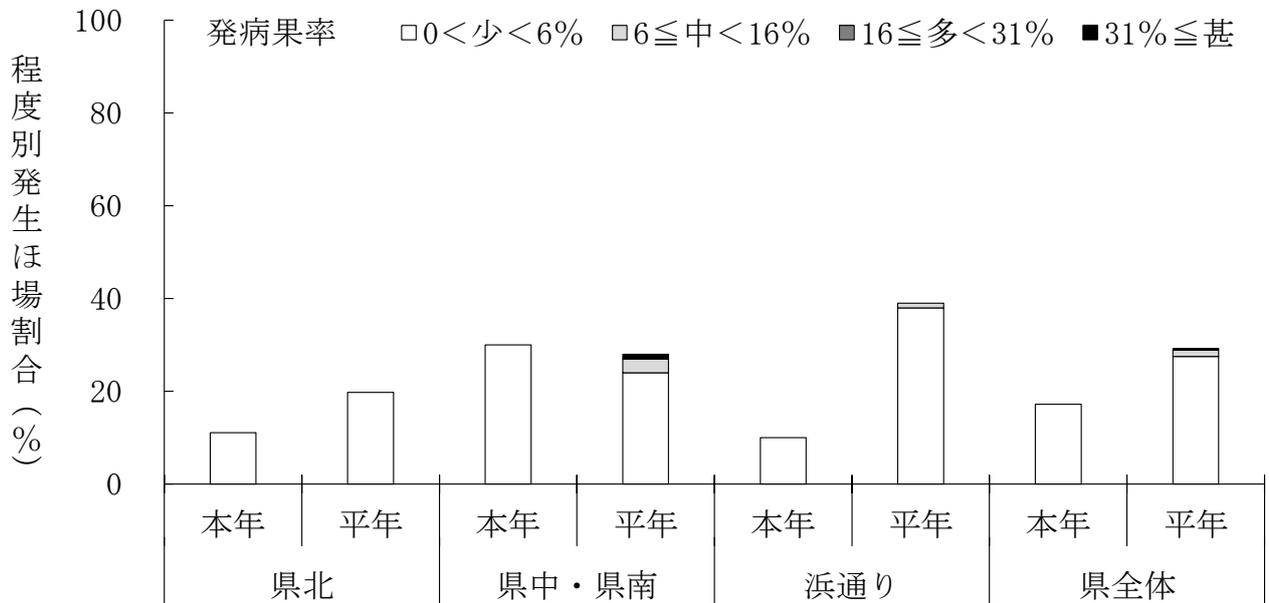


図2 ナシ黒星病の発生状況（果実）

## (2) ハダニ類

新梢葉寄生の発生ほ場割合は、県北地方、県中・県南地方では平年より高く、浜通り地方では、平年並でしたが、中発生や多発生のは場が確認されました（図3）。また、複数園で葉焼け症状が確認されています。東北地方の1カ月予報（令和7年7月24日発表）によれば、向こう1カ月の平均気温は高いと予想されています。園内の発生状況を確認し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう（令和7年7月10日付け令和7年度病害虫防除情報（果樹ハダニ類）参照）。

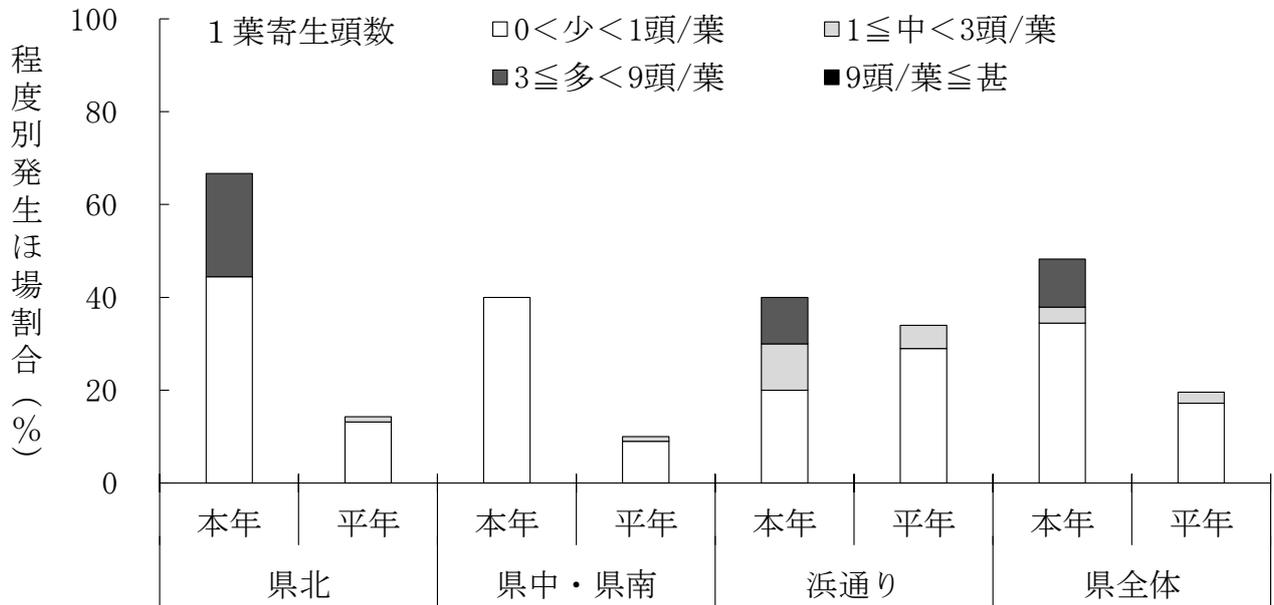


図3 ハダニ類による新梢葉での寄生状況

## (3) 果樹カメムシ類

果実被害の発生ほ場割合は、浜通りでは平年よりやや高く、中通りでは被害が確認されませんでした（図4）。第一世代成虫の園地への飛来状況をよく確認し、多数の飛来が確認された場合は、薬剤散布を実施しましょう（令和7年7月10日付け令和7年度病害虫発生予察情報注意報第1号参照）。

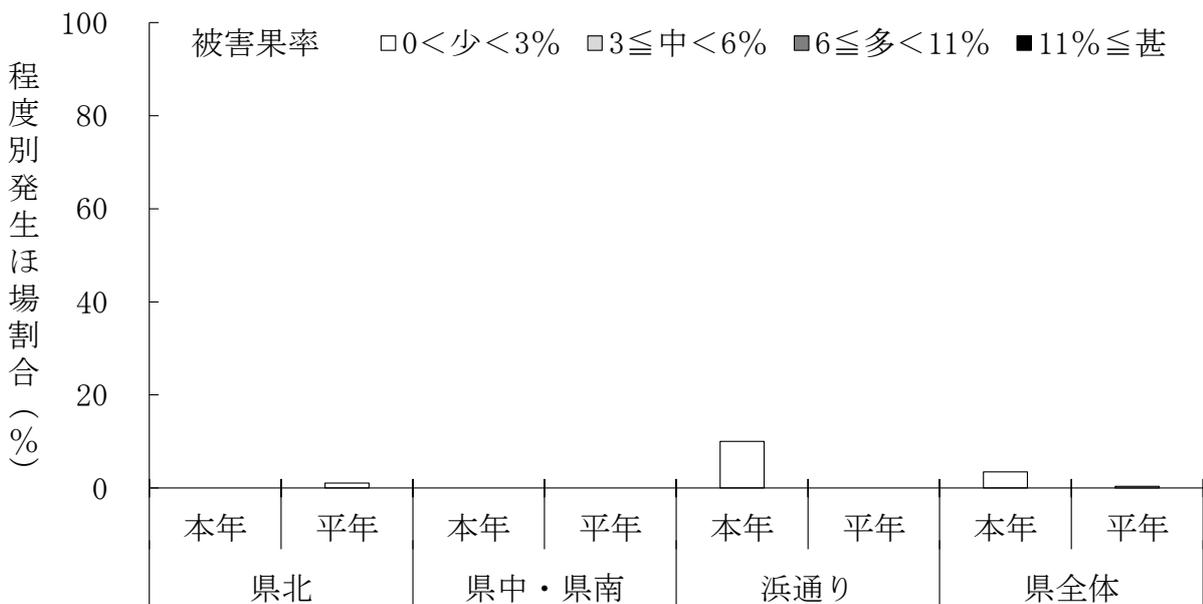


図4 カメムシ類による果実の被害状況（7月中下旬）